

2022年度 セミナーご案内

オンライン

東京

大阪

# 品質管理セミナー ベーシックコース

QC検定  
1級レベル対応

わが国でもっとも伝統と実績のある  
品質管理のエキスパート養成コース

## Quality Control seminar basic course 2022

### CONTENTS

- 1 BC 運営委員長からのメッセージ
- 2 日科技連理事長からのメッセージ
- 3 BC 継続派遣企業 人財育成の仕組み
- 4 なぜ“品質管理エキスパート”が必要なのか？
- 5 充実したコンテンツ
- 6 品質管理エキスパートの育成を実現する“7つの特長”
- 7 カリキュラム
  - ・データから見るベーシックコース
  - ・参加会社一覧、一日無料見学のご案内
- 8 派遣部門の声
- 9 開催日程
- 10 修了者の声
  - ・品質管理検定（QC 検定）  
～1級合格をサポートします～
  - ・品質管理セミナー入門コースのご案内
  - ・参加要領・申込方法・申込書

主催

一般財団法人 日本科学技術連盟

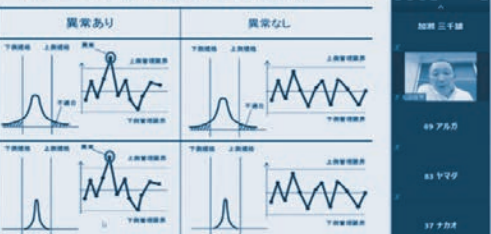
<http://www.juse.or.jp/>

日科技連 BC

検索



ヒストグラム/管理図から得る情報



# 1 BC運営委員長からのメッセージ



本コース運営委員長  
猪原 正守 氏  
大阪電気通信大学  
名誉教授

## ベーシックコースの魅力

### 「誇れる世界一充実した教育内容」

品質管理セミナーベーシックコース(略称BC)は、「品質管理技術に関する深い知識と高い応用力の習得」をねらいに1949年に開設されました。以来、今日まで70年間にわたり、延べ139回、313クラス、34,694名の研修生を産業界に輩出してきました。

本コースは、顧客・社会のニーズに応え、高い競争力をつけるために、経営上の重要問題・課題をしっかりとらえ、これを次々と鮮やかに解決していく技術者・スタッフを養成するためのものです。

経営環境の変化に応じてカリキュラムを度々変更してきましたが、その魅力は何と言っても次の点にあります。

- (1) 重要問題・課題を解決する上で役立つ統計的方法や品質管理手法を、理論と実践を融合した形でしっかり学ぶことができる。
- (2) 品質管理活動として組織的に推進・実践しなければならない活動要素をコンパクトに習得できる。
- (3) 宿題演習、ケーススタディ、ゲームなど、多様な教育方法を通して幅広い知識と応用力を習得できる。
- (4) 豊富な事例・経験を持った講師の優れた講義や指導を受けることができる。
- (5) 個別改善テーマについて、ベテラン講師陣との研究を通じてテーマ解決を行うことで、問題解決力を体得できる。
- (6) 品質管理の要素技術に関して全領域をカバーした的確・実践的でわかりやすいテキスト(27分冊)が完備されている。
- (7) 品質管理検定(QC検定)1級の合格者に求められる内容とほぼ同等であり、1級の受検・合格を目指している方には、最適な内容となっている。

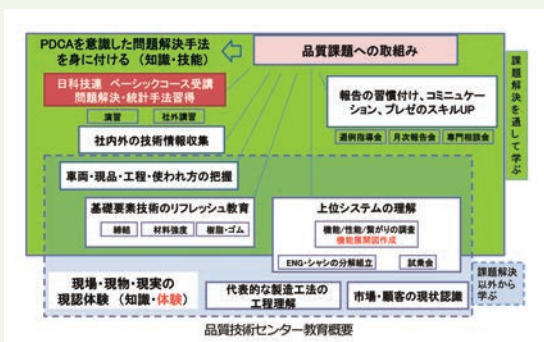
独創的な新製品・サービスを創造し、狙い通りのものを確実に提供するための技術の革新、それを支える人づくりを強化することで、時代に適したものづくりを実現し、グローバル競争優位の経営を究めるために、ぜひ本コースを活用していただくようお勧めいたします。

## 3 BC継続派遣企業 人財育成の仕組み

### 「いすゞ自動車のBCを活用した技術者教育について」

いすゞ自動車株式会社 企画・財務部門

QM担当 池田 寛 氏



当社は1916年(大正5年)創業であり、日本国内の自動車メーカーとしては最も古い歴史を持つ。2014年、開発部門若手技術者のレベルアップと将来の指導者育成を目的に、品質技術センターを設立した。開発部門各部門から実務経験5年～10年の若手技術者10名程度を選抜し、1年間ライン組織、業務と離れた環境で教育を実施している。

品質技術センターでは、実際に発生した品質問題を題材に課題解決に取り組むが、その活動を技術的、論理的にサポートするのがBCである。若手技術者たちは4月にセンター入校後、翌5月からスタートするBCを受講するが、自身が取り組む課題をBC班別研究会のテーマとして登録することにより、BCで学ぶ統計的品質管理手法を実テーマで同時進行的に実践するこ

とができる。

またBC修了後、技術者たちは品質技術センターで新たな課題に取り組むが、そこで統計的手法を繰り返し実践、実体験することにより、SQCツールを自分のものとして身につけ、PDCAを意識した論理的、科学的なアプローチが行えるようになる。

品質技術センターでは、品質課題解決と並行して基礎要素技術のリフレッシュ教育や各種社外講習会の受講、代表的な製造工程の見学や製品の分解・組立を行うとともに、市場情報の取得方法等についても学ぶ。これら1年間の研修を通じて、技術者としての感性が磨かれ、将来の指導者としての素地が形成される。

## 2 日科技連理事長からのメッセージ

### 「現場を強くするには、人を育てようとする経営者や管理職の決断力が不可欠」

40年以上も前ですが、私はトヨタ自動車工業に入社しました。検査部車両検査課の技術係として、工場内の製造現場で発生する不具合の原因究明を行っていました。品質管理の基礎教育を受けていましたが、検査の技術係の実践的な仕事であまり活かせませんでした。分からないことが沢山あり悩んでいた時期に、上司の勧めにより申し込んだのがベーシックコース(BC)です。それまでSQCの基本である統計学をきちんと学んだ経験がなかっただけに、統計とはすごいものだなと率直に感じました。

現場も、データに基づいた解析結果で説明すると、すんなりと受け入れてくれて、お互いに納得して問題解決に当たることができました。検査係を担当していた私にとって、BCはうってつけの研修だったと思います。

特に、実験計画法は、勉強では苦労しましたが、その後の私にとって一番役に立ったと思います。もう一つ、学んだ手法のなかで印象深かったのが、コースの終盤に出てきた多変量解析法です。こういった解析手法になるとさらに難易度が上がり、いっそう勉強をしなければ駄目だと思ふようになり、向学心を覚えました。

近年、日本の産業界で品質不祥事などの問題が起きています。その一つの要因として職場での品質管理能力の相対的な低下があるのではないかと危惧しています。お客様の要求レベルだけがどんどん上がってしまい、技術者がその要求レベルに合った改善や問題解決能力を身につけられないまま対応せざるをえない、そのようなギャップが生じる状況に大きな問題があるのではないのでしょうか。こうした状況に対応する一つの方策としてBCはととても向いていると思います。異常や問題点が見つかったとき、それに対応して解決できる力をもつ人財を教育することができます。

従業員の品質管理能力、問題解決能力を高めるのは経営者や管理職の役割です。そして、それはお客様に対する責任でもあります。品質管理や問題解決の研修を受け、エキスパートになった人がいると、その職場の改善力、現場力は強くなれます。そのために、まずは人を育てようとする経営者や管理職の決断力が不可欠だと思っています。



トヨタ自動車株式会社 元 副社長  
日本科学技術連盟 理事長  
佐々木 眞一 氏

### 「海外出向者教育へのベーシックコース活用」

株式会社エクセディ 品質保証本部 品質保証部 グローバル品質保証チーム

チーム長 久米 浩介 氏

当社は、駆動系を中心とした自動車部品の専門メーカーであり、1950年に前身となる株式会社大金製作所を設立。1995年にエクセディ(EXEDY)に社名変更した。

当社のベーシックコースへの派遣は86年より始まっており、当時は中堅・ベテラン社員が毎年2名程度受講。'01年からは若手～中堅社員を対象に派遣を再開、現在に至る。

私は、2008年11月当社の米国生産拠点であるEXEDY America Corporationへ出向した。自身の経験から、海外出向者に必要なスキルを右に纏めた。

この中で1.と2.のスキル向上に際しては、ベーシックコースで学んだ事が非常に有益であった。当社では、派遣するスタッフが現地で品質の維持・向上、生産課題の解決などの実践で困らぬよう、海外出向者の教育プログラムにベーシックコース受講を組み込んでおり、現在までにベーシックコースを受講且つ海外出向を経験(計画を含む)したスタッフは総勢22名に上る。

※ BC70周年記念資料より抜粋。全文をホームページで閲覧頂けます  
→ <https://www.juse.or.jp/src/seminar/detail/99/27017>

#### 1. 専門知識

海外拠点、国によっても異なるが、日本のように新卒から採用し育てていく環境は米国にはない。そのため、最も重要な事は現地スタッフから一目おかれる「専門知識」である。統計手法を含め製品知識等様々な知識がある事で、現地スタッフと対等以上に渡り合う事が出来、信頼を得るための拠り所となると考える。

#### 2. 判断力

海外では日本では考えられないような問題が発生する事がある。未然防止を徹底する事はもちろん大事だが、いざ問題が発生した時にも事実をきちんと整理し、迅速に判断する事が肝要。現地スタッフは日本人スタッフの一举手一投足を見ている。

#### 3. 人間関係における積極性

言語、文化、宗教観等様々な違いを受け入れ、現地スタッフに溶け込んでいこうとする姿勢を見せる事で信頼関係を構築することが出来る。これは海外に限った事ではないが、業務中だけに留まらず、業務外でも現地スタッフと良好な関係を築く事が仕事にも良い影響を及ぼす。

#### 4. 明確な意思表示、発信力

日本では「沈黙は金なり」「空気を読む」という言葉に代表されるように、明確に白黒を付ける事は避けられる傾向があるが、海外では自分の意思を明確に発信しないと、相手には伝わらない。俗にいう「指示待ち人間」では通用しない。



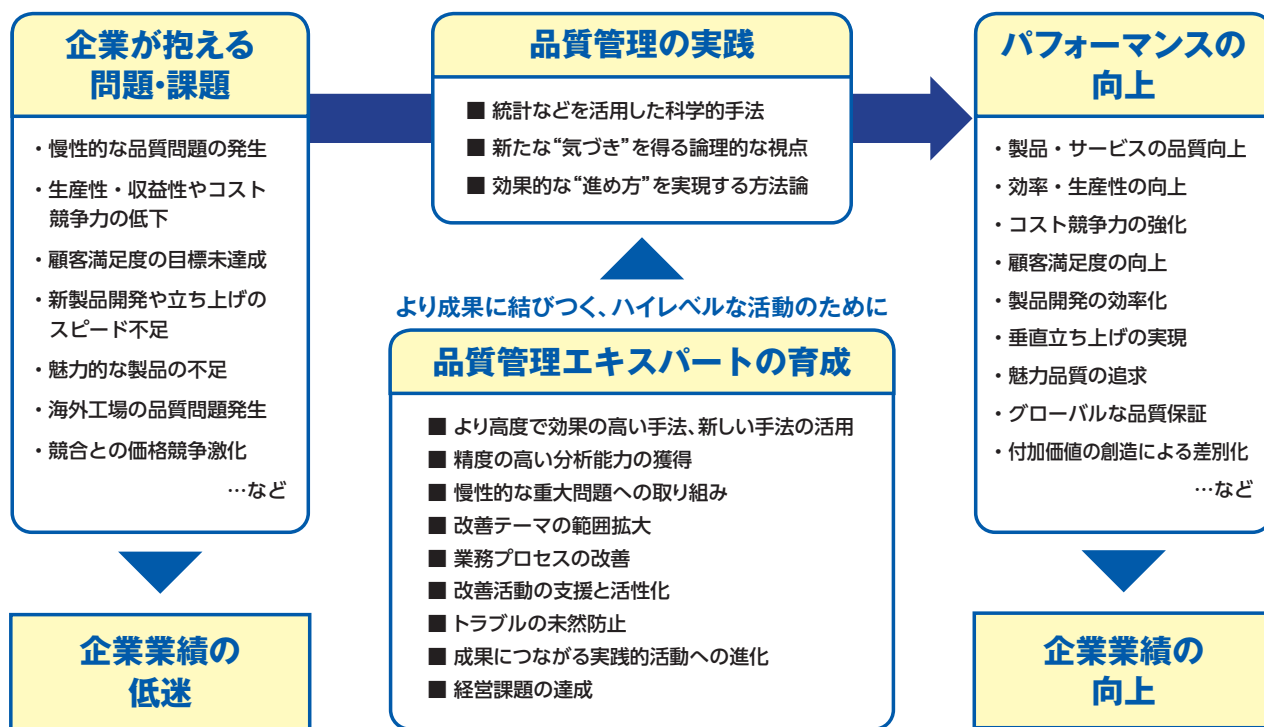
## 4 なぜ“品質管理エキスパート”が必要なのか？

企業には必ずと言っていいほど、さまざまな「解決すべき問題(悩み)」や「達成すべき課題(目標)」があります。

品質管理とは、それらの問題解決・課題達成を進めるための「具体的手段=適切な“方法”や“しくみ”の集まり」だと言えます。「新たな気づきを得られる“ものの見方・考え方”」や、「統計をベースにした“科学的手法”」、「問題解決・課題達成を効果的に進めるための“ストーリー(段取り)”」、「組織的な取り組みを進めるための“ノウハウやマネジメントスキル”」など、さまざまな具体的手段が集まっています。

それらを活用することで、重大な問題や困難な課題を乗り越え、企業のレベルアップを図ることができます。

すなわち、「品質管理のエキスパートを育成する」と言うことは、「企業のかかえる問題・課題を、より適切かつ効果的な方法で迅速に解決し、製品・サービスの品質や顧客満足、生産性や効率、コストや利益の改善に寄与し、企業のパフォーマンスを向上させる人財を育成する」ことだと言い換えることができます。



これまで数多くの“品質管理エキスパート”を輩出してきた「品質管理セミナーベーシックコース」その指導方法の秘密とは？

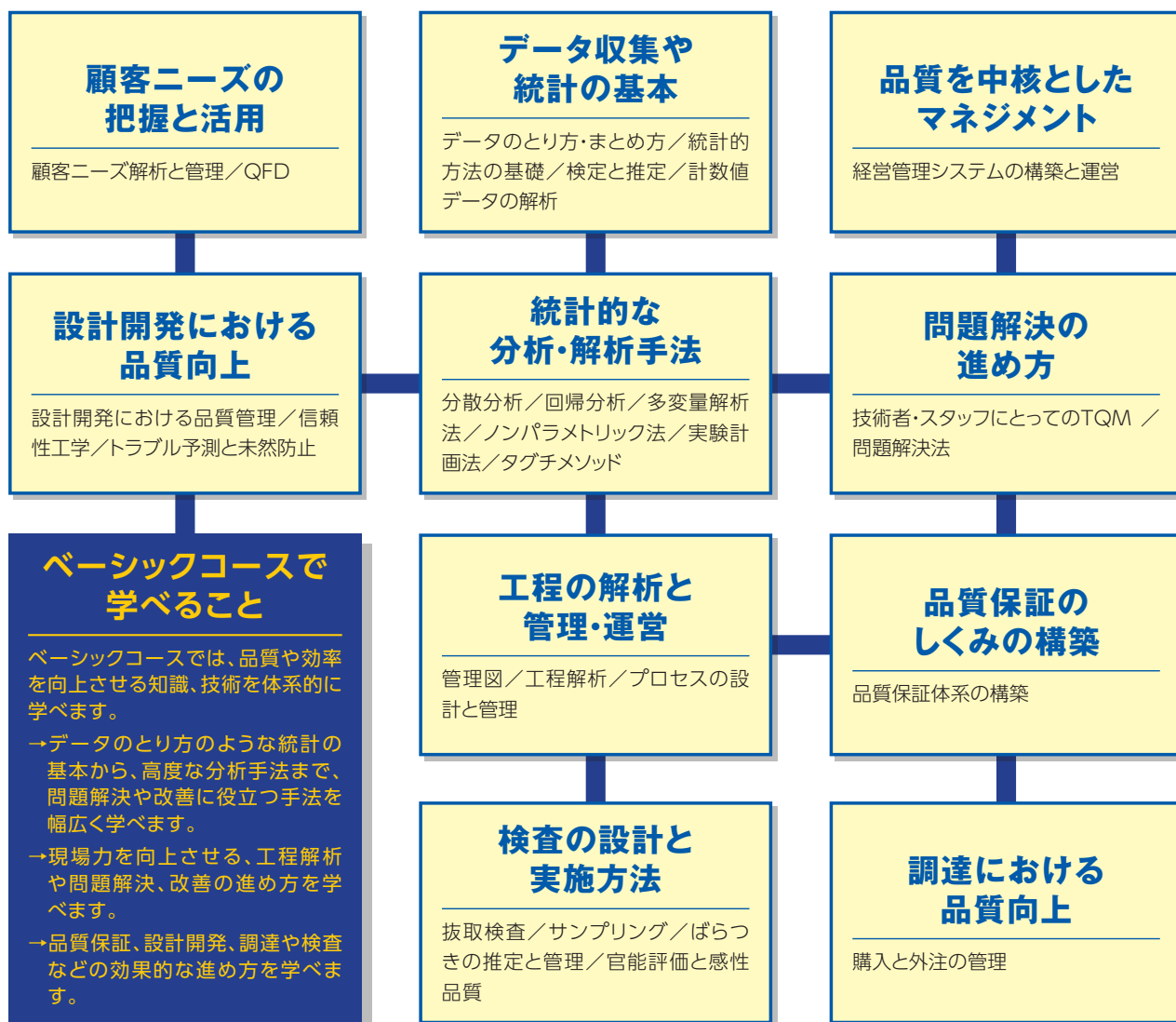
詳しくは次ページ以降をご覧ください！



## 5 充実したコンテンツ

品質管理エキスパートの育成に必要な知識・技術・方法論を、体系的に学んでいただけます。

品質管理エキスパートに求められる資質は何か。それは、現場で起きていることを正しく、かつ精細に理解する分析力と、それを支える手法・技術の活用能力、そしてその分析結果を問題解決や改善へとつなげる方法論です。また、さまざまな業務のあるべき姿を正しく理解し、それらの取り組みを業務に活かすことで、実績につなげていく実践力も求められます。ベーシックコースでは、それらの知識・技術・方法論を基礎から体系的に学ぶと共に、実践力を養成します。



# 品質管理エキスパートの育成を実現する“7つの特長”

品質管理エキスパートは一朝一夕に育成できるものではありません。

品質管理のエキスパートたるには、品質管理の全般に関する深い理解、各種手法に精通し活用できる知識、そして何より、実務で改善の実績を生み出せる実践力が必要となります。

「品質管理セミナーベーシックコース」は、次の“7つの特長”により、知識力と実践力の育成バランスの取れた日本随一のカリキュラムや指導体制を実現し、品質管理エキスパートを毎年数多く輩出しています。

## 1 充実した“指導体制”と、指導品質確保の取り組み

### 1) 講師陣

大学の学識経験者や企業の実務担当者などで構成される総勢 **200名**の講師陣が、それぞれの専門分野について丁寧かつ実践的に指導します。また、**講師陣の殆どが、ベーシックコースの卒業生**であるため、コースの内容を熟知しています。

### 2) 運営組織

セミナー全体を“運営委員会”で統括し、その下部組織として東京/大阪それぞれのクラスについて見直しを行う“幹事会（東京/大阪）”、テキストとカリキュラムを編成する“教程委員会”、各種指導教材の作成と改訂を検討する“宿題分科会”“ST分科会”、指導方法の改善を図る“講義方法検討会”各種ケーススタディの作成と改訂を行うWGなどといった検討委員会を設置しています。これらの委員会では、産学から**延べ80名の委員**が参画しており、その総活動時間は**年間で約2000人時（人数×時間）**にもものぼります。これらの活動により、カリキュラムやテキストの他、演習や試験、指導方法についても**常に見直し**を行っています。

### 3) 指導の品質確保の取り組み

講師の指導方法についても、講師会や表彰制度を設けるなど、向上を図っています。

### 本コース運営委員会委員

#### 委員長

猪原 正守（大阪電気通信大学名誉教授）

#### 委員

永田 靖（早稲田大学、BC東京幹事会幹事長）

森田 浩（大阪大学、BC大阪幹事会幹事長）

棟近 雅彦（早稲田大学、BC教程委員会委員長）

荒木 孝治（関西大学）

稲葉 太一（神戸大学）

中條 武志（中央大学）

奥原 正夫（公立諏訪東京理科大学）

山田 秀（慶應義塾大学）

榊 秀之（関西福祉科学大学）

鈴木 知道（東京理科大学）

竹士伊知郎（QMビュローちくし）

西 敏明（岡山商科大学）

光藤 義郎（日本科学技術連盟 囀託）

（敬称略、2021年2月現在）

#### 講師会

定期的にセミナー講師が一堂に会する勉強会です。指導方法の向上などを図るとともに、最新情報の習得、優れた指導ノウハウの共有を進めています。

#### 班別指導優秀賞

班別研究会（本頁“2”参照）の助言内容について参加者にアンケートを実施して、その結果を講師にフィードバックするとともに、優秀な講師を表彰しています。

#### 年度キャンペーン優秀賞

セミナー全体で、年度ごとに講義ノウハウのキャンペーン・テーマ（例：「納得のいく説明」「興味の湧く講義」など）を設定し、優秀なノウハウの共有を図っています。

## 2 実務に直結する実力を養成する“班別研究会”

### 1) 改善テーマ

自社の品質問題から**業務に関係の深い改善テーマ**を選び、研究を進めます。身近なテーマで改善を行うことで、より深い知識・経験を得ることができます。実際に改善実績をあげるとともに、**毎月グループ研究の場**を設け、問題解決・課題達成の諸手法・考え方の実践力を身につけます。



### 2) 一般討論

**少人数のグループを編成**し、その中でお互いの進捗を発表する“一般討論”を通して、自分の改善について多様な視点からの検証を行うとともに、他メンバーの改善の進め方を知ることは、自身の学習の参考になります。（**守秘義務誓約**により、改善活動の情報は保護されます）

### 3) 個別研究

個別改善テーマについて、経験豊富な講師陣との研究を通じてテーマ解決を行うことで、問題解決力が体得できます。

### 4) 受講カルテ

班別研究会の活動は個人ごとに「受講カルテ」に記録されます。**講師と受講者が進捗具合を確認・共有**し、着実な研究に役立てています。

### 5) 研究抄録の送付

コース終了後、全受講生から提出されたレポートをもとに、「班別研究会研究抄録」を製本し、全員に送付しています。

#### テーマ例

##### 【新製品開発】

●新製品開発システムの効果検証

##### 【不良低減】

●D製品における外観不良の低減  
●ハードディスクにおける磁気特性のばらつき低減

##### 【品質保証】

●フィールド情報分析によるクレーム件数の低減  
●内部品質監査の有効性評価方法の確立

##### 【標準化】

●製造管理指標の設定  
●CAE解析による予測の制度検証・標準化

##### 【システム構築】

●プログラムにおける評価点の向上

##### 【品質向上・改善】

●光センサの品質改善  
●加工機における仕上面粗さの向上  
●製品の規格登録・見積もり作成のリードタイム短縮

#### 改善実績がもたらげる“班別研究会の効果”

●自動車メーカーA社 …… 1テーマ2億円  
●電気機器メーカーB社 …… 1億2千万円/年  
●窯業メーカーC社 …… 1テーマ1億円  
●電気機器メーカーD社 …… 1テーマ1億円

※改善効果金額の一例です。

## ③ TQMの全容を網羅した “カリキュラム・テキスト・講義シラバス”

### 1) カリキュラム

TQMの実践に必要な視点や手法、方法論などを網羅したカリキュラム (P.7 参照) で学習できます。

### 2) テキスト

テキストはカリキュラムの科目ごとに用意され、計 27 冊で構成されています。これらは、セミナー受講時のもとより、**セミナー修了後**も現場で TQM 活動を進めるときの**バイブル**として活用いただけます。

### 3) 講義シラバス

各講義科目の概要と到達目標、学習のヒント等のポイントがまとめられた講義シラバスを予習・復習に活用することで、効率的に学習を進められます。



## ④ 自分の理解度を把握できる “Student Test”

2月目以降に毎月、講義内容に関する「理解度テスト」を実施します。その結果を通して**自己の理解度や実力を把握**し、後の研修の指針とします。

また、高得点者は成績優秀者として最終月に表彰される可能性が高く、**QC 検定 1 級受検対策としても有効**であることから、受講生が講義内容を復習するモチベーションの向上につながっています。



## ⑤ 学習内容を確実に身につける “宿題と演習”

### 1) 宿題

各月の間に課される「宿題」をこなすことで、**毎月の学習内容を復習**し、確実に身につけることができます。問題は非常に現実に近い内容を出題し、統計手法の基礎を復習するとともに実際の問題解決を行う上での実践力も同時に習得できます。

### 2) 演習

宿題をベースに次月の講義時に「発表・討論」を実施します。宿題演習では、単なる疑問点の解消に留まらず、**講師を交えて白熱した議論が展開**されます。これにより業務で活用できる**活きた手法**を身につけることができます。



## ⑥ “QCゲーム(逐次探索実験)” による実践的体験学習

一連の実験によって最適な条件を探索的に見出ししていく「逐次探索実験」を、PCシミュレーションにより**実践的に体験学習**していただけます。実務的な問題解決能力を養うことに有効です！



## ⑦ 即戦力を育成する “ケーススタディ”

問題解決や工程解析、QFD (品質機能展開)、回帰分析、実験計画法について、**実務での活用法・適用法**を習得していただき、即戦力を育成します。



# 7 カリキュラム

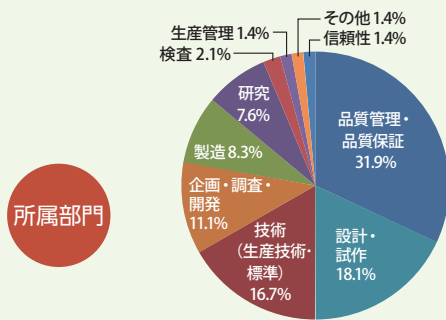
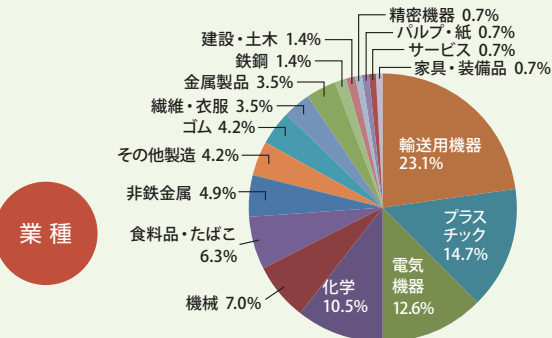
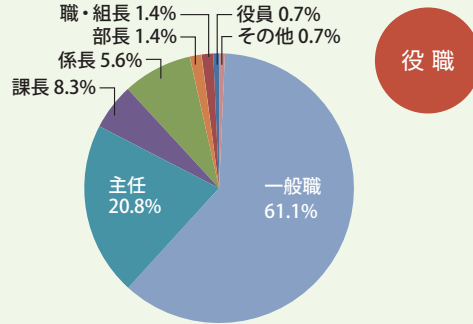
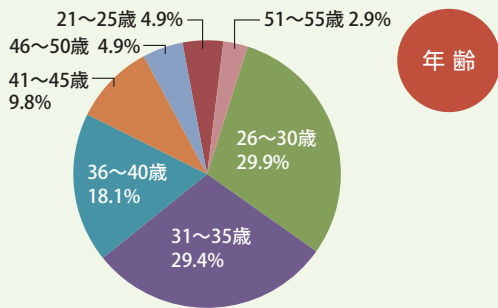
	第1月	第2月	第3月	第4月	第5月	第6月
第1日	<b>技術者・スタッフにとってのTQM①</b> 本コースのオリエンテーション、企業経営とTQM、TQM推進における技術者・スタッフの役割	<b>検定と推定③</b> 2つの母分散に関する検定と推定、2つの母平均に関する検定と推定	<b>実験計画法①</b> 分散分析の要点と基本事項、2水準系直交配列表実験、適用例	<b>計数値データの解析①</b> 母不良率に関する検定と推定、母不良率の違いに関する検定と推定、母欠点数に関する検定と推定、母欠点数の違いに関する検定と推定	<b>実験計画法③</b> 分散分析の要点と基本事項、乱塊法、分割法	<b>タグチメソッド①</b> 特性値に影響する要因とノイズ、設計と実験計画法、パラメータ設計の概念、パラメータ設計における因子、静特性のパラメータ設計、動特性のパラメータ設計
	<b>技術者・スタッフにとってのTQM②</b> 品質の考え方、管理の考え方、TQMの基本的考え方と問題・課題認識	<b>検定と推定④</b> 対応のあるデータの母平均に関する検定と推定、相関に関する検定と推定、一様性、異常値、正規性に関する検定	<b>実験計画法②</b> 3水準系直交配列表実験、直交配列表を用いた多水準法と擬水準法	<b>計数値データの解析②</b> 適合度の検定、分割表による検定、母不良率に関する帰帰分析、母不良率に関する分散分析	<b>実験計画法④</b> 適用例、直交配列表を用いた分割法	<b>タグチメソッド②</b> パラメータ設計の意義とDesign for Quality、パラメータ設計で使用する直交表、非線形システムのパラメータ設計、入出力が測れない場合のパラメータ設計
第2日	<b>データのとり方・まとめ方①</b> 品質管理とデータ、データをとる際の注意、チェックシート、パレート図、グラフ、ヒストグラム、特性要因図	<b>管理図①</b> 管理図とは、Xber-R管理図の作り方、Xber-R管理図の見方、その他の管理図	<b>プロセスの設計と管理①</b> 工程能力調査、QC工程表、作業標準書、作業のフルブルー化	<b>帰帰分析③</b> 重回帰分析とは、重回帰モデル、帰帰係数の推定、偏帰帰係数の解釈、標準偏帰帰係数、平方和の分解と重相関係数、帰帰係数に関する検定と推定、重回帰モデルに関する検定・推定、帰帰式による予測	<b>実験計画法 ケーススタディ</b> 実験の方法、得られたデータの解析方法を講義で学び、理論的内容の理解・考え方や概念の理解・統計的方法のセンスを習得する	<b>官能評価と感性品質</b> 官能評価とは、官能評価におけるデータの性質、官能評価の実施法、官能評価の統計的手法、感性品質、事例
	<b>データのとり方・まとめ方②</b> 散布図、工程解析例、データ解析法のまとめ	<b>管理図②</b> 管理図による工程解析、工程解析の例、管理図による工程管理、管理図の数理	<b>新QC七つ道具</b> 新QC七つ道具とは、新QC七つ道具の各手法	<b>帰帰分析④</b> 説明変数の選択、帰帰診断、いろいろな帰帰モデル、重回帰分析のプログラム、重回帰分析の適用	<b>ノンパラメトリック法</b> ノンパラメトリック法とは、二つの母集団に関する推測、一つの母集団に関する推測、相関分析、分散分析法	<b>プロセスの設計と管理②</b> 工程設計、検査設計、初期流動管理、設備管理、計測管理
第3日	<b>問題解決法</b> TQM活動における問題解決の重要性、問題解決の進め方、課題達成の進め方、問題解決におけるQC手法、固有技術と管理技術、問題解決力の診断	<b>工程解析 ケーススタディ</b>	<b>顧客ニーズ解析と管理</b> 市場ニーズの収集と解析、顧客満足度調査、品質表、商品企画評価	<b>帰帰分析 ケーススタディ</b>	<b>信頼性工学①</b> 信頼性工学概論(概念とモデル、故障のパターン、信頼性予測)	<b>品質保証体系の構築</b> 品質保証体系、クレーム処理と重要品質問題の解決、文書化、内部品質監査、製造物責任
	<b>問題解決 ケーススタディ</b> QC手法を活用した実際の問題解決事例を取り上げ、その手順、着眼点、進め方等を体感・習得し、実践への橋渡しとする		顧客の要求を把握、顧客要求の一覧表から企画品質を設定し、企画品質を具体的な製品やサービスに織り込むための設計品質に落とし込むまでの一連の作業について、品質表を通じて迅速に行う方法を習得する		<b>信頼性工学②</b> 信頼性データ解析(寿命分布と故障率、ワイブル解析)	<b>経営管理システムの構築と運営</b> 方針管理、日常管理、機能別管理、QC教育、QCサークル
第4日	<b>統計的方法の基礎①</b> 統計的推測、確率変数と確率分布、期待値、分散および共分散	<b>分散分析①</b> 分散分析とは、一元配置法	<b>帰帰分析①</b> 帰帰分析とは、単帰帰分析、最小二乗法とは、平方和の分解と分散分析表、帰帰に関する検定と推定、パソコンを用いた解析手順	<b>サンプリング</b> サンプリングの目的と概要、サンプリングの基礎理論、サンプリング法の設計	<b>トラブル予測と未然防止</b> トラブル防止のための基本的な考え方、FMEA、FTAとは、デザインレビュー、事例	<b>多変量解析法</b> 多変量解析法とは、主成分分析、判別分析、その他の手法(クラスター分析、ソローモデル、一般線形モデル、対応分析)
	<b>統計的方法の基礎②</b> 正規分布、正規分布に基づく統計量の分布、正規性の吟味	<b>分散分析②</b> 二元配置法	<b>帰帰分析②</b> 残差検討、パソコンを用いた解析手順、繰返しのある場合の単帰帰分析、単帰帰分析の適用例	<b>ばらつき推定と管理</b> 分散成分の推定、群内変動と群間変動、測定の繰返し、誤差の管理	<b>QCゲーム</b> コンピューター・シミュレーションによるゲーム方式で体得。最適条件探索という目的に合わせてデータを収集・解析し、結論を導く	<b>班別発表会①</b>
第5日	<b>検定と推定①</b> 検定と推定	<b>分散分析③</b> 多元配置法、パソコンによる分散分析	<b>抜取検査</b> 検査、抜取検査、計数規準型抜取検査、調整型抜取検査	<b>設計開発における品質管理</b> 設計開発における品質管理の基本と重点活動、ネットワーク技術の予測と解決、設計の再利用と効率化、部門間連携のマネジメント	<b>購入と外注の管理</b> 購入・外注における品質管理の基本的考え方と重点活動、調達先の評価と選定、受入検査、調達先の指導・育成、品質の視点から見たSCM、グローバル調達	<b>演習⑤</b> 前月の講義範囲から課された宿題の発表をベースに質疑応答を行い、疑問点を解消して統計手法の理解を深めるとともに、問題解決の応用力を身につける。
	<b>検定と推定②</b> 母平均に関する検定と推定、母分散に関する検定と推定	<b>演習①</b> 前月の講義範囲から課された宿題の発表をベースに質疑応答を行い、疑問点を解消して統計手法の理解を深めるとともに、問題解決の応用力を身につける	<b>演習②</b> 前月の講義範囲から課された宿題の発表をベースに質疑応答を行い、疑問点を解消して統計手法の理解を深めるとともに、問題解決の応用力を身につける	<b>演習③</b> 前月の講義範囲から課された宿題の発表をベースに質疑応答を行い、疑問点を解消して統計手法の理解を深めるとともに、問題解決の応用力を身につける	<b>演習④</b> 前月の講義範囲から課された宿題の発表をベースに質疑応答を行い、疑問点を解消して統計手法の理解を深めるとともに、問題解決の応用力を身につける	<b>班別発表会②</b>



## データから見るベーシックコース

参加者数 **34,694名** (累計・2022年1月現在)

参加企業数 **46社** (138～139回)



## 第138～139回 参加会社一覧 (50音順) ※社名は受講当時のもの

<b>あ</b>	鹿島道路(株)	住友ゴム工業(株)	日本ゼオン(株)
アイシン・エイ・ダブリュ(株)	(株)金沢村田製作所	住友ベークライト(株)	日本たばこ産業(株)
秋田住友ベーク(株)	(株)カネカ	住ベシート防水(株)	<b>は</b>
旭化成(株)	(株)カネカテクノロジーサーチ	(株)セイコーエプソン	パナソニック(株)
旭化成メディカル MT (株)	(株)キャタラー	センショウ化成(株)	バンドー化学(株)
アサヒグループ食品(株)	共和薬品工業(株)	<b>た</b>	古河電気工業(株)
(株)アツミテック	グンゼ(株)	(株)ダイセル	<b>ま</b>
いすゞ自動車(株)	(株)神戸製鋼所	DMG 森精機(株)	三ツ星ベルト(株)
イチカワ(株)	コーセル(株)	トクセン工業(株)	<b>や</b>
井上軸受工業(株)	<b>さ</b>	(株)ダイセル	(株)ヤマナカゴーキン
(株)オティックス	(株)SUMCO	ニプロファーマ(株)	<b>ら</b>
オムロン(株)	サントリースピリッツ(株)	(株)日本科学技術研修所	(株)LIXIL
オリンパス(株)	サントリービール(株)	日本化薬(株)	ワブコジャパン(株)
<b>か</b>	住友金属鉱山(株)	日本製鉄(株)	

## 「一日無料見学」のご案内

品質管理セミナーベーシックコースでは、カリキュラム(計30日間)のいずれか1日を無料で見学できる機会をご提供しています。下記のようなお悩みをお持ちの方には特にお勧めです。先着10名様(1社1名様)とさせていただきますので、この機会にぜひご利用ください!

1. 日数が30日間、かつ参加費が高額なセミナーなので、コースの内容を一度確認したい。
2. 受講を検討中であるが、講義について行けるかどうか、レベルを確認したい。
3. 「班別研究会」に興味を持っているので、一度様子を見学したい。

お申込み・お問い合わせは  
セミナー事務局  
までお気軽に  
ご連絡ください!



住友ペークライト(株)  
生産技術本部  
品質保証推進部  
部長  
池田 信二氏

## 品質保証について体系的に学習できる、 人材育成に最適な講座

当社は、1911年に国内で初めてプラスチックを製造して以来、プラスチックのパイオニアとして、お客様とともに新しい価値を生み出す研究・開発を行い、社会に貢献する製品や技術を創生しています。現在は、自動車、半導体、ヘルスケア、食品、建築など幅広い分野に関わっています。

安定した品質の製品を提供することは企業価値向上に直結する重要な要素です。「我が社は、信用を重んじ確実を旨とし、事業を通じて社会の進運及び民生の向上に貢献することを期する」という社是のもと、「顧客第一・品質第一を念頭に品質形成の良い流れを作って本質改善することにより、収益向上に貢献し、同時にSDGsに則り社会に貢献する」という品質管理方針を定め、品質管理体制の整備や人材の育成を進めています。

「品質管理セミナー・ベーシックコース」(以下、BC)は、品質保証の基本的な考え方から統計的手法まで体系立てて学ぶことができるため、毎年継続して技術者を派遣し、人材育成に役立てています。これまでに370名以上をBCに派遣しておりますが、受講した技術者は品質保証部門に限らず、研究・開発や製造部門など、さまざまな部署で活躍しています。また、受講者は、OJTによる後輩育成でも力を発揮しており、企業競争力の向上に貢献してくれています。

近年ではデジタル化が急速に進展し、当社でもIoTを用いて集めたビックデータをAIで分析して、研究・開発に役立てていますが、ここでもBCで習得した統計的手法が役立っています。

今後もBC派遣を継続し、品質管理の意識づけと、より一層スキルの定着を図っていきます。また、データサイエンティスト育成のための基礎としても活用したいと思えます。

# 9 開催日程

オンライン形式 第141回	
第1月	2022年 5月 9日(月)～ 13日(金)
第2月	2022年 6月 6日(月)～ 10日(金)
第3月	2022年 7月 4日(月)～ 8日(金)
第4月	2022年 8月 1日(月)～ 5日(金)
第5月	2022年 9月 5日(月)～ 9日(金)
第6月	2022年 10月 3日(月)～ 7日(金)

集合形式【東京/大阪クラス】第142回	
第1月	2022年 10月 17日(月)～ 21日(金)
第2月	2022年 11月 14日(月)～ 18日(金)
第3月	2022年 12月 12日(月)～ 16日(金)
第4月	2023年 1月 16日(月)～ 20日(金)
第5月	2023年 2月 13日(月)～ 17日(金)
第6月	2023年 3月 13日(月)～ 17日(金)



品質管理セミナーベーシックコースは日本統計学会第3回「統計教育賞」を受賞しました。

統計教育賞とは、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献し、統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を対象として授与される賞です。



## 受講を通じ、業務効率が向上したと感じます

弊社では排気ガスの有害成分を浄化する触媒という自動車部品を製造しています。私は品質管理部に所属し検査機器の管理や導入、分析関係の諸問題の対応業務を行っています。

日常的に統計的手法は使用していましたが理解が今一つであり、またより高度な手法も学びたいと考えていた折に、本コースへの参加機会があり受講しました。

受講してこのコースは唯一無二であると感じました。手法の理論的説明も、ここまでやってくれるセミナーはありません。加えてケーススタディー、班別研究会など、実際に活用する機会もあり理解が深まりました。

受講を通じ、対象の問題に対してどのようにデータを取りどの手法で解析を行うべきか悩まずに行えるようになり、業務効率が向上したと感じます。

今後は自業務への活用は勿論、後輩へ教育し成果を出させることも意識して業務を行う予定です。併せてQC検定1級にも挑戦する予定です。

受講される方、期間中は非常に苦労しますが、修了したとき式の暗記などではなく根本から理解し、大きく成長したご自身を感じられるかと思います。



(株)キャタラー  
品質管理部 分析検査課  
**田中 達也氏**  
138BC  
(2020年11月～  
2021年4月)  
BC賞受賞

## 効率的な開発ができるよう、 BCで学んだことを活かしていきます

弊社では、技術系社員の教育の一環としてBCに参画しており、上司の薦めで受講することになりました。

大変と聞いてはいましたが想像以上で、私の場合は半年間土日返上で必死に取り組まなければ付いていけないという感じでしたが、その分、得られたものは大きかったです。色々学ぶことはありましたが、私が最も勉強になったのは、誤差を把握して分離するという考え方でした。

私は熱可塑性樹脂材料の研究開発に従事しており、様々なデータを取得して判断していくこととなりますが、誤差を把握し、有意であることを確認することで、データに踊らされない効率的な開発ができるよう、BCで学んだことを活かしていきたいと思っています。

BCは統計的手法の基礎について、座学、グループワーク、宿題、テスト、班別研究会等のバラエティに富んだカリキュラムで学ぶことができます。班別研究会では、一流の先生方にご指導していただきながら、問題解決に取り組めるので、その様な観点でも是非受講をご検討してみたいと思います。



住友ベークライト(株)  
産業機能性材料研究所  
**堀内 聡氏**  
139BC  
(2021年5月～10月)  
BC賞受賞

### 品質管理検定 (QC 検定) ～1級合格をサポートします～

ベーシックコースは、日本品質管理学会認定の品質管理検定(QC検定)1級レベル対応のコースです。コース卒業生より、続々とQC検定1級合格の声が寄せられています。BC修了後には、ぜひQC検定1級取得にチャレンジしてみてください。

#### QC 検定 1 級 合格者の声

134 BC 大阪クラス  
節 晃彦さん(神島化学工業株式会社)

私は元々研究職をしておりましたが、品質部門へと転属となり、社内第一号としてBCを受講しました。品質管理についてはほとんど知らないままの受講でしたが、講義だけでなく班別研究会、グループ演習等、実践的な内容で活きた知識を得ることができました。修了後、どれだけ力が付いたか試してみようと思いQC検定1級を受験しました。BCで習った内容をそのまま活かすことができ、また、記述問題についても1級合格者の方のアドバイスをいただいたことで、慌てることなく試験に取り組むことができ無事合格することができました。

今後、BCで得た知識をもとに実践に役立てたいと思います。

#### ～ BC 修了生の方が、続々と QC 検定 1 級に合格されています！

138 BC (オンラインクラス)  
新田 展崇さん(旭化成株式会社)

社内の品質保証業務への異動後1年でQC検定1級に合格しました。短期間で合格できたのは、BCの講義内容が会社での担当業務に関連し、学んだ知識をすぐに実務に活用でき、QCの基本的な考え方を体得できたことにあります。さらに毎月実施されるStudent Testを時間内に解くことや、課された宿題に対しては納得するまでじっくり取り組むことで力をつけました。また、班別研究会で学んだ問題解決の手順をQC検定の論述に応用できたことも幸いでした。

私にとって合格はスタートラインであり、今後も見識を深め、自社の品質活動の向上に貢献していきたいと思っています。

138 BC (オンラインクラス)  
宮谷 保太朗さん(オムロン株式会社)

BCを受講しQC検定1級合格できました。私は品質管理部門に所属し採用する部品や当社製品に対する品質の確からしさをデータをもってロジカルに判断、当社お客様に対し品質保証することが求められています。そのため、品質経営の理解・統計的方法の活用が必要でした。私はそれを意識し講義される分析手法を、どの場面で活用できるか常にシミュレーションしながら受講しました。そのためかQC検定は当初予測していたよりも難易度を感じず受験することができました。それぞれの分析手法違いを理解し統計量の意味について体系的に修得できるBC受講は本当に価値があったと考えています。末筆ではありますがBC講師の方々には本当に感謝申し上げます。

# 第141・142回 品質管理セミナーベーシックコース(オンライン/東京/大阪)参加要領

## オンライン研修ご参加にあたってのお願い

- ライブ配信のビデオ会議(遠隔会議)システムは「Zoom」を使用します。
- 申込前に、事前に以下のテストサイトで、スピーカーとマイクのテストを確認してください。  
<https://zoom.us/test>  
 ※開催当日に視聴できないとお問い合わせを頂戴した場合、対応できない場合がございます。
- オンライン研修へは、1IDにつき1名様のお受講をお願いしております。複数人での受講はできません。

- ▶対象 実務経験3年以上の技術者・スタッフの方々
- ▶会場 東京クラス：日本科学技術連盟 東高円寺ビル(東京都杉並区高円寺南1-2-1)  
 大阪クラス：日本科学技術連盟 大阪事務所(大阪市北区堂島2-4-27 JRE堂島タワー)
- ▶参加費 613,800円(一般) / 547,800円(会員) ※税込み
- ▶お申し込み・お問い合わせはこちらまで  
 東京クラス (一財)日本科学技術連盟 BC担当  
 TEL:03-5378-1214 FAX:03-5378-9842 E-mail:sqcsemi@juse.or.jp  
 大阪クラス (一財)日本科学技術連盟 大阪事務所 BC担当  
 TEL:06-6341-4627 FAX:06-6341-4615 E-mail:juseosaka@juse.or.jp
- ◆本パンフレットのPDFデータを希望される場合は、上記お問合せ先までご連絡ください。
- ◆セミナーのウェブサイトもご覧ください →

## 申込方法

### ▶ホームページからのお申込み

<http://www.juse.or.jp/>の申込みフォームからお申込みください。

### ▶E-Mailでのお申込み

次項①～⑥の項目を明記のうえ、下記アドレスにお申込みください。

- ①コース名(例:「141回品質管理セミナーベーシックコース」東京クラス)
- ②開催日(例:「2022年5月9日」)
- ③参加者名(ふりがな)
- ④会社名、所属、役職
- ⑤ご連絡先住所、TEL番号、FAX番号
- ⑥連絡担当者がおられる場合は、その方のお名前、所属、役職、連絡先(住所、TEL、FAX)

### ▶郵送またはFAXでのお申込み

下記参加申込書に必要事項をご記入のうえ、お送りください。

#### 〈申込先〉

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1  
 一般財団法人 日本科学技術連盟セミナー受付グループ宛  
 TEL:03-5378-1222 / FAX:03-5378-1227

〈セミナー受付専用アドレス〉 [regist@juse.or.jp](mailto:regist@juse.or.jp)

#### ▶申込み受付から受講まで

上記のいずれかの方法でお申込みをいただきましたら、開催の約1カ月前に連絡担当者様宛に「開催のご案内」「参加券・請求書」等の書類を郵送いたします。お支払いについての詳細は、請求書に記載してありますが、原則として請求書発行後2カ月以内に指定の銀行口座または郵便振替口座にお振込みください。

2022年度 第【141-オンライン・142-東京・142-大阪】回 ☎該当する回数の方に  
✓チェックをつけてください

品質管理セミナーベーシックコース 参加申込書 FAX 03-5378-1227

※欄は記入しないでください

年 月 日

※参加番号	参加者名(ふりがな)	所属工場(事業所)	担当部課・役職名	連絡先(TEL)

●連絡担当者(お申込受付後「開催ご通知」をお送りする方)

会社名	事業所名	TEL
担当部課・役職名	担当者名	FAX
所在地	〒	E-mail
参加費	一般 613,800円(税込み) / 1名 × 名 = 円 賛助会員 547,800円(税込み) / 1名 × 名 = 円	

※ご記入下さいました企業・組織および個人情報は、参加申込受付処理ならびに日科技連からのセミナー情報ご送付のために使用いたします。

会員番号

### 【キャンセルの取扱いとお願い】

ご本人の都合が悪くなった場合には、原則として代理の方のご参加をお願いします。やむを得ず、お客様の都合でキャンセルされる場合にはFAXでご連絡をお願いします。なお、その際にはキャンセル料を申し受けます。

### 【キャンセル料】

- セミナー開催日の2週間前～8営業日前のキャンセル ————— 参加費の25%
- セミナー開催日の7～1営業日前の17:00までのキャンセル ————— 参加費の50%
- セミナー開催日の1営業日前の17:00以降のキャンセルまたは事前のご連絡がなかった場合 ————— 参加費の100%